福知山市立図書館
令和6年10月発行 No.133

としょかんだより

開館時間：10時～18時
（中央館は火～金：20時）
休館日：毎週月曜日、
年末年始、その他臨時休館
（分館は国民の祝日・休日）

（中央館）TEL 22-3225　FAX 22-7118　（三和分館）TEL 58-4715　FAX 58-4716
（夜久野分館）TEL・FAX 37-1066　（大江分館）TEL・FAX 56-1017

百はたくさん 図書館100周年記念にちなんで

福知山に図書館ができた大正13年（1924年）から、100年が経ちました。図書館100歳の誕生日の9月17日は、記念のお祝いをしました。「百」という言葉は、数字を表す他に「たくさん」という意味でも使われます。100歳になった図書館でたくさんの本と出会ってください。

百の言葉いろいろ

百人力
とても力強いこと。多くの助けを得られて心強く感じること。

百も承知
よく知っていること。

百科事典
あらゆる分野のことがらについて説明している本。

百聞は一見に如かず
何回も聞くより、実際に一度自分の目で見るほうがよくわかる。

参考にした本
- 『例解学習国語辞典』第9版　金田一 京助／編　小学館
- 『小学新漢字辞典』改訂版　甲斐 睦朗／監修　光村教育図書
- 『三省堂例解小学国語辞典』第8版　田近 洵一／編　三省堂
- 『三省堂例解小学ことわざ辞典』　川嶋 優／編　三省堂

読書週間 2024

10月27日から11月9日は読書週間です

この一行に 逢いにきた

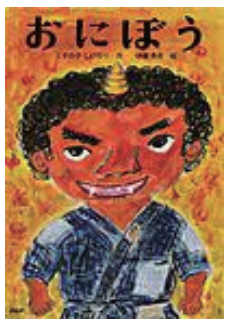
2024・第78回　読書週間
10/27～11/9

読書推進運動協議会ホームページ より

今回のテーマ

こわい？こわくない？鬼・妖怪の世界

いろんな妖怪がいるけれど、鬼もいろいろいるのかな？こわい鬼や、やさしい鬼、いろんな鬼や妖怪が出てくるお話を紹介します。



『おにぼう』

（くすのき　しげのり／作，伊藤　秀男／絵　ＰＨＰ研究所）

鬼の子、おにぼうは「人間ともなかよくなれる日がくる」というお母さんの言葉を信じています。しかし、村の大人たちは「鬼は悪さをする」と嫌います。そんな中、大雨で村が流されそうになり、おにぼうは村を守るため、ある行動に出ますが…。

『鬼遊び〔3〕髑髏の手まり歌』

（廣嶋　玲子／作，おとない　ちあき／絵　小峰書店）

秋の実りや虫の音にさそわれて、子どもたちがやってくる。夕暮れ時に、子どもたちにしのびよるのは…。

「お月見」「お手玉」など、秋の行事や昔ながらの遊びを題材としたぞっとするこわいお話が6編。

『小学5年生がかいたざんねんいがいゆかいな妖怪事典』

（関本　創／文・絵　講談社）

そもそも妖怪って何？

「ぬりかべ」はかべじゃなくて犬？「小豆洗い」って本当は小豆を洗っていない？

知らなかった妖怪の基礎知識を楽しい絵で紹介してくれます。妖怪たちのざんねん・いがい・ゆかいな一面をのぞいてみませんか？

福知山市立図書館

児童おすすめの本

『パインさんのごちゃまぜかんばん』

（レオナード・ケスラー／さく，小宮 由／やく　大日本図書）

かんばんやのパインさんは、町長さんに「町中のすべてのかんばんを作りかえてほしい。」とたのまれました。新しいかんばんをとりつける日、パインさんはメガネが見あたらず、よく見えないままとりつけたため町は大さわぎに…。パインさんのゆかいなお話。

『消えた校長先生』

（西村 友里／作，大庭 賢哉／絵　Gakken）

人は誰だって怖いものがある。「このお守りがあれば大丈夫。」そう言って渡されたお守りは半分だけ。もう半分をくれるはずの校長先生は、会いに行っても何度も消えてしまう。そこにはヘビの伝説が関係していて…。4年生の野外学習で何かが起こる!?

『歪みの国のアリス　真夜中のお茶会』

（ナイトメアスタジオ／原作，狐塚 冬里／著，チェリ子／イラスト　ＰＨＰ研究所）

夕暮れのせまる教室で目覚めた亜莉子が出会ったのは、「チェシャ猫」と名乗るあやしい人物。チェシャ猫とともにシロウサギを探すことになった亜莉子だったが、その途中、奇妙な住人たちに「おかえり、僕らのアリス！」と歓迎されて…。

『動物の義足やさん』

（沢田 俊子／文　講談社）

動物の義足や体を支える装具があることを知っていますか？元々人間の義肢装具士だった島田さんは、動物たちの力になりたいと、たった一人で「動物の義足やさん」を始めました。彼はいったい、どんな動物たちにどんな装具を作ったのでしょうか？

福知山市立図書館

ティーンズおすすめの本

『カラフル』

（阿部　暁子／著　集英社）

夢に向かって突き進んでいた日々が、ある日突然閉ざされ意欲を無くしていた伊澄。同じ高校の新入生で、車いすユーザーの六花と出会い、時にぶつかりながらも理解を深めていく。二人は互いに生きる喜びに目覚めていき、再び立ち上がって見えた世界は…。

『あなたの言葉を』

（辻村　深月／著　毎日新聞出版）

学校生活や友だちのこと、本を読むということ―。今はうまく言葉にできないあなたの心のうちは、何度も整理され、やがて「あなたの言葉」となり、助けてくれるときがくる。『かがみの孤城』の著者・辻村深月が自身の経験をもとに贈るメッセージ集。

『僕たちはまだ、総理大臣のことを何も知らない。』

（長谷部　京子／著・監修，木平　木綿／構成　Gakken）

ＡＩが世の中のことを決める未来から来た少年・宙と現代の中学生・大地と海珠は、インタビューを通して歴代の総理大臣がどんな熱い志を持って政治に取り組んできたかを知る。完璧なＡＩが政治をする未来と人間が政治をする未来、3人はどちらを選ぶのか…？

『頂を目指して』

（石川　祐希／著　徳間書店）

イタリアでプロバレーボール選手として活躍する石川祐希。2024年、パリオリンピックの日本代表選手でありチームのキャプテン。バレーボールとの出会い、学生時代の教えと気づき、イタリアでのプロ生活、パリオリンピックに挑む強い思いなどを語る。